

第113号(2016秋冬)



平成28年11月1日発行

スカイタクルム


大丸エナウイン 株式会社
「こんにちわ奥さん」係
〒559-0022
大阪市住之江区緑木1-4-39
TEL.06(6685)5101
ショッピングセンター
0120-093-025
本店 <http://living-poppo-garden.jp/>



格 (ヒイラギ)

まり1年の半分が夏期なのでしょ
うか。だが、11月ともなれば晚秋、
初冬です。小春日和とは、春で
はなく晚秋から初冬にかけての
暖かい晴天のこと。季語として
は冬。インディアンサマーもサ
マーといつても夏ではなく、小
春日和に相当します。北美の東
部地方で使われはじめ、今では
英語圏の各国で用いられる言
葉。18世紀末から使われていま
すが、その起源は不明。この時
期にアメリカ・インディアンが
冬の準備をするからとの説も。

環境省が定めた今年のクールビズ期間は5月1日から9月30日までですが、10月も暑い日に室温の適正管理や各自の判断による軽装を、としました。5月から10月までの6ヶ月間、つまり1年の半分が夏期なのでしょうか。

「はしめに」

莊園の所有者は貴族ですが、実質的に管理し耕作していたのは農民でした。この農民が土地を護るために武装しました。発生当初の武士とは武装農民だったのです。武士がかつぎあげたのが貴種としての平家でした。武士の利益代表です。ところが平家は公家化し、武士の味方ではなくなります。すると武士たちは流浪の貴種・頼朝つまり源氏をかつぎました。頼朝は関東武士団の棟梁として鎌倉幕府を開き、武士の領地を保障しました。本領安堵です。ただ、源氏の将軍はわずか3代、北条氏にとつて代わられました。

班田不足解消のため、開墾地の私有が認められ、貴族の莊園が拡大しました。私有を認めれば、農地も耕作者も朝廷のものという公地公民制の律令制度が維持できなくなります。そのため莊園にも課税されるようになります。それではたまらんと登場します。

物である米を生産するための土地、その争いで勝利したのは武士でした。公家が勢力を盛り返すこともあります。治維新まで武士の時代は続きます。

鎌倉、室町、戦国と続く武士の時代は、活気にあふれていました。それ以前の繪空事のような貴族支配と異なり、実力主義リアリズムの時代となつたのです。米は経済の中心でしたが、商品経済、錢経済が発達し、戦国期には世界文明にも目が向けられるようになります。信長は世界を視野に入れ、誇大妄想的な朝鮮出兵は残念ながら、秀吉もまた世界を見ていきました。意外なことに家康も貿易に熱心だったのです。信長路線が継続していたら日本は国際社会に参加し米経済は商品経済に移行したでしょうが、徳川幕府は門戸を閉ざしたのです。

米の物語② 武士の登場

